

線形代数学第 1 - 期末試験解答例 -

情報システム工学科 1 年生

平成 18 年度前期 - 2006.8.2 -

1. ベクトル集合がスカラー倍及び和に関して閉じているかどうかを調べる .
- (a) 「ベクトル空間を構成する」ベクトル集合から取り出したベクトルを v とするとき, cv もまたこの集合に含まれる . さらに, ベクトル集合から c_1v, c_2v を取り出したとき, $c_1v + c_2v = (c_1 + c_2)v$ もベクトル集合に含まれる .
 - (b) 「ベクトル空間を構成しない」ベクトル集合に含まれるベクトルは v_1 のスカラー倍か, または v_2 のスカラー倍のいずれかであるから $v_1 + v_2$ はこの条件を満たさないためベクトル集合には含まれない .
 - (c) 「ベクトル空間を構成する」 $c_1v_1 + c_2v_2$ のスカラー倍は v_1 と v_2 の線形結合であり, $c_1v_1 + c_2v_2$ と $d_1v_1 + d_2v_2$ の和も v_1 と v_2 の線形結合であり, いずれもベクトル集合に含まれる .
 - (d) 「ベクトル空間を構成する」このベクトルのスカラー倍も第 1 要素は零である . また, 第 1 要素が零である 2 つのベクトルの和の第 1 要素も零である .
 - (e) 「ベクトル空間を構成しない」このベクトルのスカラー倍では第 2 要素が 1 から変化する (スカラー倍) . 第 2 要素が 1 であるふたつのベクトルの和では第 2 要素は 2 になる .
 - (f) 「ベクトル空間を構成する」 $v = [v_1, v_2, v_3]^T$ と $v' = [v'_1, v'_2, v'_3]$ が与えられた条件を満たすとき, $av + bv'$ がこの条件を満たすことを示す .

$$\begin{aligned} & (av_1 + bv'_1) + 3(av_2 + bv'_2) - (av_3 + bv'_3) \\ & = a(v_1 + 3v_2 - v_3) + b(v'_1 + 3v'_2 - v'_3) = 0 \end{aligned} \quad (1)$$

2. V と W の双方に含まれるベクトルを x とする . V と W は直交するから, x 自身が直交することになり, $x^T x = \|x\|^2 = 0$ であるから, $x = 0$ となる .

3. A に対しては右逆行列 C が存在する .

$$C = A^T(AA^T)^{-1} \quad (2)$$

$$AA^T = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \quad (3)$$

$$(AA^T)^{-1} = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{bmatrix} \quad (4)$$

$$A^T(AA^T)^{-1} = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \frac{1}{3} \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{bmatrix} = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ 1 & 1 \\ -1 & 2 \end{bmatrix} \quad (5)$$

4. b を A の列空間の成分 b_c と左零空間の成分 b_{nT} に分解する . $b = b_c + b_{nT}$.

(a) $Ax = b$ が解を持つのは , b が A の列空間にあるときであるから , $b_{nT} = 0$ が成り立つ .

(b) $A^T y = 0$ が解を持つとき , y は A の左零空間にある . 左零空間は列空間に直交するから $y^T b_c = 0$ であり , さらに , 条件を加味すると

$$y^T b = y^T (b_c + b_{nT}) = y^T b_{nT} \neq 0 \quad (6)$$

となる . 従って , $b_{nT} \neq 0$ となる .

以上より , (a) では $b_{nT} = 0$ となり , (b) では $b_{nT} \neq 0$ となるから , 同時に解を持つことはなく , いずれかが解を持つ .

5. b によらず解を持つための条件は $r = m$ であり , $r < m$ のときは解の存在は b に依存する . 次に , 一意解を持つための条件は $r = n$ であり , 不定解を持つための条件は $r < n$ である .

(a) $r = m$ かつ $r = n$ ($r = m = n$)

(b) $r = m$ かつ $r < n$ ($r = m < n$)

(c) 一意解を持つ条件は $r = n$ であり , 不定解を持つ条件は $r < n$ であり , これらは同時には成り立たないので「不可」である .

(d) $r < m$ かつ $r = n$ ($r = n < m$)

- (e) $r < m$ かつ $r < n$
 (f) (c) の理由と同じで「不可」である .

6. v_1 と v_2 は A の零空間の基底である . A を求めることは行空間を求めることと同じである . 行空間は零空間と直交補空間の関係にあるので , A の零空間を行空間とする行列 B の零空間を求める .

$$Bx = 0 \quad (7)$$

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (8)$$

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (9)$$

$$u = -w \quad (10)$$

$$v = w \quad (11)$$

$$\begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = w \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (12)$$

B の零空間を張る基底は $[-1, 1, 1]^T$ であり , これは同時に A の行空間の基底でもあるから , A は次式で与えられる .

$$A = \begin{bmatrix} -1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \quad (13)$$

7. まず , $Ax = 0$ の一般解を求める .

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 2 & -1 & 0 \\ -1 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (14)$$

ガウスの前進消去を行う .

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & -1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (15)$$

u, v を基底変数, w を自由変数として一般解を求める .

$$u = w \quad (16)$$

$$v = 2w \quad (17)$$

$$\begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = w \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (18)$$

特殊解は $Ax = b$ の第 1 式, 第 2 式で $w = 0$ とおいて求める .

$$u = 1 \quad (19)$$

$$v = 2 \quad (20)$$

より, 特殊解は次のように求まる .

$$\begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (21)$$

以上より, $Ax = b$ の一般解は次のように求まる .

$$\begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = w \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (22)$$

8(a) 行空間

行列 A をガウスの前進消去により, 行列 U に変換する .

$$\begin{aligned}
 A &= \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 0 \\ -1 & 1 & 0 & 2 \\ 1 & 1 & -2 & 2 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \end{bmatrix} \\
 &\Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} = U
 \end{aligned} \tag{23}$$

階数は $r = 2$ であるから, 行空間は 2 次元である . 基底は上式から $[1, 0, -1, 0]^T$, $[0, 1, -1, 2]^T$ となる .

零空間

上で求めた行列 U より, $Ax = 0$, $x = [x_1, x_2, x_3, x_4]^T$ において, x_1, x_2 が基底変数, x_3, x_4 が自由変数である .

$$x_1 - x_3 = 0 \tag{24}$$

$$x_2 - x_3 + 2x_4 = 0 \tag{25}$$

より,

$$x = x_3 \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + x_4 \begin{bmatrix} 0 \\ -2 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \tag{26}$$

これより, 零空間は 2 次元 ($n - r = 4 - 2 = 2$) であり, 基底は $[1, 1, 1, 0]^T$, $[0, -2, 0, 1]^T$ である .

列空間

行列 U におけるピボットの位置より, A の第 1 列と第 2 列が線形独立となる . これより, 列空間は 2 次元 ($r = 2$) で, 基底は $[1, -1, 1]^T$, $[0, 1, 1]^T$ である .

左零空間

A^T をガウスの前進消去により, 行列 U に変換する .

$$\begin{aligned}
 A^T &= \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ -1 & 0 & -2 \\ 0 & 2 & 2 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & -1 & -1 \\ 0 & 2 & 2 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} = U
 \end{aligned} \tag{27}$$

上で求めた行列 U より, $A^T \mathbf{y} = \mathbf{0}$, $\mathbf{y} = [y_1, y_2, y_3]^T$ において, y_1, y_2 が基底変数, y_3 が自由変数である.

$$y_1 - y_2 + y_3 = 0 \quad (28)$$

$$y_2 + y_3 = 0 \quad (29)$$

より,

$$\mathbf{y} = y_3 \begin{bmatrix} -2 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (30)$$

これより, 左零空間は 1 次元 ($m - r = 3 - 2 = 1$) であり, 基底は $[-2, -1, 1]^T$ である.